

Ⅱ 「研究部」の実践研究

1 「第1部会」の研究

- (1) 研究仮説
- (2) 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」
- (3) モデル授業検討会
- (4) 仮説検証のサイクル1
- (5) 公開授業研究会
- (6) 仮説検証のサイクル2

<資料> 公開授業研究会「国語科学習指導案」

2 「第2部会」の研究

- (1) 研究仮説
- (2) 研究内容2「言語活動を活かした学習形態の工夫」
- (3) モデル授業検討会
- (4) 仮説検証のサイクル1
- (5) 公開授業研究会
- (6) 仮説検証のサイクル2

<資料> 公開授業研究会「算数科学習指導案」

「研究部」の所員・研究員

○ 第 1 部 会

所 員 熊 谷 いづみ (海 陽 小学校)

所 員 工 藤 朋 彦 (旭ヶ丘 小学校) ～ 部 長

所 員 縣 宏 光 (北 辰 中学校)

研究員 中 坪 倫 美 (天 沢 小学校)

研究員 石 田 純 子 (星 蘭 中学校)

○ 第 2 部 会

所 員 津 田 勝 (武 揚 小学校)

所 員 大 橋 真彩人 (蘭 東 中学校)

所 員 鈴 木 大 地 (向 陽 中学校) ～ 副部長

研究員 遠 藤 智 子 (知利別 小学校)

研究員 石 黒 晋 (本室蘭 中学校)

Ⅱ 「研究部」の実践研究

1 「第1部会」の研究

(1) 研究仮説

(仮説 1)

課題をつかむ段階において、学びのつながりや見通しをはっきりさせることにより、主体的に問題解決を図ることができるようになるであろう。

仮説設定の理由や押さえ

①「課題をつかむ段階」について

児童生徒が主体的に問題解決を図るに当たって、問題解決に向けた学習過程を、「つかむ」「見通す」「追求する」「まとめる」の4段階とおさえ、本年度は課題を「つかむ」段階に焦点を当てて研究を進めることにした。「つかむ」段階は授業を構想する上で、児童生徒が興味・関心や問題意識を高め、自分なりの方法で学びを進めようとする重要な段階と考える。

②「学びのつながり」について

学習指導要領における目標・内容に基づいて、1単位時間や単元、さらには単元間の学習の系統性を明確にし、指導事項を系統的に指導していくことを学びのつながりとした。学びにつながりをもたせるためには、本時の目標や単元の目標を明確にしながら、年間指導計画においては継続性や一貫性を持たせることが重要であると考え。

③「見通し」について

学習の見通しをもつためには、教師のみが課題解決の方策を把握するのではなく、児童生徒自らも既習事項や経験したことなどに基づき、課題解決の見通しをもつことが必要である。

(2) 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」

(研究内容 1-1)

「単元のつながりを明らかにした学習計画の作成」について

ア 単元の指導事項の明確化と学習の系統性の重視

- ・ 指導事項を明確化して系統性をもたせ、継続性、一貫性をもって指導すること

イ 単元の指導計画の工夫

- ・ 単元の目標を明らかにし、見通しをもって指導に当たること

(研究内容 1-2)

「基礎・基本の定着を図る学び、または学び直しの在り方」について

ア 既習事項、学習状況の把握

- ・ シラバスやノートなどを活用し、学習の定着を把握しながら指導に当たること

イ 言語活動の充実と基盤整備

- ・ 教室掲示や学習資料の充実を図り、多様な言語活動を行える環境づくりをすること

(研究内容 1-3)

「今までの学びを活用して解く課題の設定」について

ア 学習課題に導く発問の工夫

- ・ 1単位時間の目標に近づく課題の設定と発問の工夫、補助発問の精査

イ 自力解決ができる教材・教具の工夫

- ・ ワークシートや具体物の用意、自力解決の手立てとなる資料の用意をすること

ウ 板書の充実

- ・ 習得と活用を行えるよう、授業の流れがわかる板書の工夫

(3) モデル授業検討会

① 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」

(研究内容 1-1)

単元のつながりを明らかにした学習計画の作成

ア 単元の指導事項の明確化と学習の系統性の重視

- ・ 指導事項を明確化して系統性をもたせ、継続性、一貫性をもって指導すること

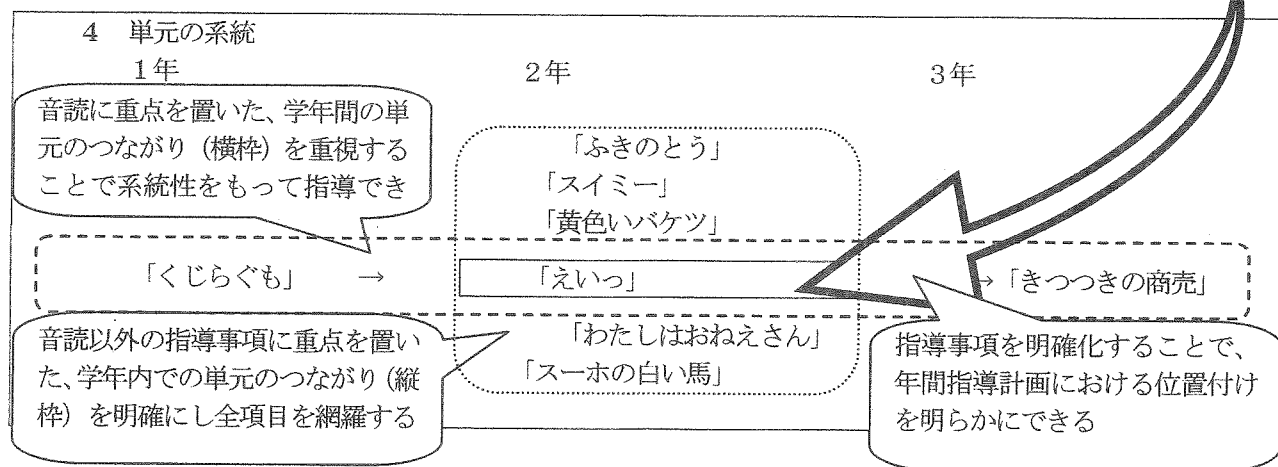
イ 単元の指導計画の工夫

- ・ 単元の目標を明らかにし、見通しをもって指導に当たること

② 実践事例

ア 単元の指導事項の明確化と学習の系統性の重視

- ◎ 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。【読(1)ウ・言語活動ア、読(1)ア・言語活動イ】



イ 単元の指導計画の工夫

欄	単位時間の目標	○主な学習活動 *言語活動	■評価規準 □評価方法
1・2	物語を読み、いちばん心に残ったことについて感想を述べる ことができる。 音読劇とはどういうものか知り、楽しい音読劇をする見通しをもつことができる。	○「えいつ」の読み聞かせを聞いて、いちばん心に残ったことについて発表しあう。 *感想を発表しあう。 ○音読劇とはどういうものかを知り、「くまの父さんと子どもになって音読げきをたのしもう」という学習課題を設定する	■物語を読み、いちばん心に残ったことについて感想を述べようとしている。【関】 □発表、話し合いの様子 ■音読劇とはどういうものか知り、楽しい音読劇をする見通しをもっている。【読】 □音読、観察

最初に「音読劇を行う」と単元全体の課題を提示することで、児童も見通しをもつことができるので、自分から進んで学習することができる

明確化した指導事項をもとに、「音読劇を楽しもう」と課題提示することで、意欲的に内容を読み取ることができる考えた

③ 児童生徒の変容

単元の指導事項を明確にし、学年内、学年間の学習内容の系統性を明らかにすることで、一貫性をもって指導計画を立てることができた。その指導計画をもとに、単元の導入段階において、目標を提示したことにより、児童自らが見通しをもって主体的に学習に取り組むことができた。さらに、1単位時間ごとの目的意識を持ち、意欲的に取り組んでいた。

④ 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」

(研究内容 1-2)

基礎・基本の定着を図る学び、または学び直しの在り方

ア 既習事項、学習状況の把握

- ・ シラバスやノートなどを活用し、学習の定着を把握しながら指導に当たること

イ 言語活動の充実と言語環境の整備

- ・ 教室掲示や学習資料の充実を図り、多様な言語活動を行える環境づくりをすること

⑤ 实践事例

ア 既習事項、学習状況の把握

音読をする際の
ポイントを掲示
し、児童がいつ
でも自分の音読
を振り返られる
ようにした。

音読の本イシ

- ・しせい
- ・口のあけか
- ・声の大キ
- ・読むはやさ

単元のはじめに、単元の目標や単元全体の学習内容を伝え、児童が見通しをもって学習できるようにしたことで、内容が整理され理解されやすいと考えた。

単元の目標や単元を通した課題（音読劇をしよう）のやり方を掲示することで、児童がいつでも振り返り・学び直しをすることができ、基礎・基本の定着につながった。

毎時間の授業の振り返りや教科書の書き込みから前時までの児童の学習状況を把握した。

「じゃあ、やってみせてくれる」
はりきで（早く見たら）
おねがいするやうに
えらそうに、ゆひをさして
「あれ、黄色だよ」
おどろいたやうに
こまじやうに
しきさうに
「赤じゃないよ」
あつちのくさくさん、えういんに
「赤にも黄色にもちまさんだ」
感心したやうに、うでをくんで
心の中であうやうに（ホッな声で）
ふしぎやうに、うなずきはから
ねえころへんへもどして美濃ひんかにしたの
「なやんにように、こまじやうに」
ふしぎやうに（赤にそと言ったのに）
気になるかんじで（ひんぞ）
わからなかいかにして

イ 言語活動の充実と言語環境の整備

すらすら音読できる力をつけることが基礎
となると考え、物語教材の学習では、毎時
間必ず音読をする時間をとった。

くまのとうさんと子どもになつて
音読けをたのしむう
音読けをのやうに
声のかんし
かんたんな体のうごき
ひょうじょうをかおつき
ことはのつけたし

本児童にとっては、これまでに音読劇の経験がなく初めて学習することだったため、単元の初めに音読劇とはどういうものなのか、また、音読劇の工夫の仕方について教えた。

授業全体を通して児童の発言を中心に進めていくようにし、発表の場面を充実させることで、言語活動の充実を図った。また、前時までの児童の発言を掲示しておくことで、考えるヒントにでき、自信をもって発表することにつながった。

⑥ 児童生徒の変容

読むことの能力を育てるための「音読劇をたのしもう」という活動を設定することで、児童の表現に広がりが見られ、言葉の響きやリズムに注意して読むことができた。また、掲示で学習の振り返りがいつでもできるようにしたことで、前時までの学習を生かして考えることや1時間1時間の学習の積み重ねができ、基礎・基本の定着を図ることができた。

⑦ 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」

(研究内容 1-3)

今までの学びを活用して解く課題の設定

ア 学習課題に導く発問の工夫

- ・ 1単位時間の目標に近づく課題の設定と発問の工夫、補助発問の精査

イ 自力解決ができる教材教具の工夫

- ・ ワークシートや具体物の用意、自力解決の手立てとなる資料の用意をすること

⑧ 実践事例

ア 学習課題に導く発問の工夫

(2) 本時の展開 (6/13)			
過程	○主な学習活動 *言語活動 ・予想される児童の発言	◇教師	
つかむ・見通す	○前時の学習を想起する。	◇2のちを思い出す	
	○本時の学習課題を確認する。 とうさんの気持ちを考えて 音読けきき	◇考えをばらばらに持たせる	
	○本時の学習範囲 (3の場面の前半)を音読する。 ○とうさんの言葉に線を引く。(5つ) ○とうさんの5つの言葉を、どのように読んだらいいか、どんな動きをするかを考えて教科書に書き込む。	◇とうさんの気持ちを考えて書き込みをするようにさせる。 ◇前時までの活動を生かして考えるようにさせる。	▲前時までの書き込み(掲示)を参考にさせる。

1場面より、「くまの子の気持ちを考えて音読劇をする」という学習課題で学習を進めてきた。くまの子の言葉や、行動を表す言葉に着目し、読み方を考えるという学習活動を重ねることで、学び方を身に付けることができた。

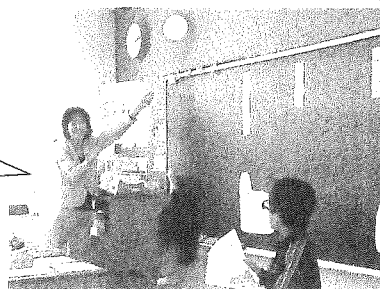
本時は、とうさんの様子がより表されている場面なので、とうさんの気持ちを表した音読の仕方について考えることを課題とした。

イ 自力解決ができる教材教具の工夫

① とうさんは、もう一回 言いました。
② えいっ。
③ とうさんは、出ないよ。
④ とうさんは、あんなに、空を見ていました。なんにも見えてきません。
⑤ くまの子は、口をあけて、そのあたりの空を見ていました。なんにも見えてきません。
⑥ えいっ。
⑦ とうさんは、ステッキでえんとつの上をうをさして、言いました。
⑧ 空の、あのへんを 見ていてごらん。星を出してみせるから。
⑨ とうさんは、ステッキでえんとつの上をうをさして、言いました。
⑩ えいっ。

自力解決の時に、教科書に自分の考えを書き込む活動を行った。読み取り声の速さや大きさの他に、どのように読みたいか(人物の気持ちを想像して)や、付け足したい台詞、体の動きなども書き込んで、場面や会話の様子がより豊かに想像できるようにした。

発表の時には、ステッキや星などの小道具を準備した。低学年の場合は、特に、場面の様子を豊かに想像することで、その時の感情や、つい口をついて出る言葉などを想像することができると考えた。



⑨ 児童生徒の変容

同じ課題解決の仕方を繰り返すことで、児童はどのような言葉や文に着目して考えたらいいかを理解し、主体的に課題解決にのぞむことができた。読む教材での課題解決の仕方を見通す力を付け、言葉を元に考えようとする習慣が身に付いてきている。

(4) 仮説検証のサイクル1

① モデル授業

ア 成 果

- ・ 音読劇をするというめあてに向かって、児童は意欲的に学習に参加していた。
- ・ 発言しやすい学級の雰囲気、学習の流れや課題解決の仕方がわかっていることも、進んで学ぶ態度に結びついた。
- ・ 課題解決（音読の仕方を考える）の場面で、既習内容（書き込みの仕方、音読の仕方など）が活かされていた。
- ・ 本時においても、音読の仕方や既習事項についての教室掲示が非常に有効であった。
- ・ 学習の積み重ねにより、児童の活動や思考に深まりが見られた。
- ・ 児童が互いに音読の仕方を評価し合うことは、意欲を高める上でも、読みの力をつける上でも効果的であった。

イ 課 題

- ・ 課題解決を見通す場面では、教師側から見通し方を提示していた。今後は、課題提示の仕方を工夫したり、児童自らの解決方法を見通す場面を増やしていくとよい。
- ・ 1単位時間のねらいをはっきりさせ、学習活動に軽重をつけることや発問を工夫する必要がある。
- ・ 音読教材の扱い方として、課題のまとめ方はどの程度行うか、児童の読みをどこまで尊重するか（読みの誤りがあった場合など）、探っていく必要がある。

② 公開授業

ア （研究内容 1－1）について

- ・ 課題解決を見通す場面では、発達の段階や児童生徒の実態に応じて、課題提示の仕方を工夫する必要がある。公開授業では、生徒が自らの解決方法を見通す場面を増やせるよう資料を用意するなど、課題提示の方法を考える。

イ （研究内容 1－2）について

- ・ 音読を言語活動として取り入れる際には、基礎・基本の定着を図り、確認する必要がある。公開授業では、シラバスを用いて前学年までの既習事項を確認することで、定着を図ることができる。と考える。
- ・ 一人一人に言語活動に関する資料を与えることで、より多様な学習活動を充実することができる。と考える、言語環境の整備を行う。

ウ （研究内容 1－3）について

- ・ 音読教材の扱い方において、内容理解をどの程度行うのか課題があった。既習事項（内容理解）を活かしつつ、音読による内容の読み取りをどの程度行えるのか、再度検証する必要がある。

(5) 公開授業研究会

① 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」

(研究内容 1-1)

単元のつながりを明らかにした学習計画の作成

ア 単元の指導事項の明確化と学習の系統性の重視

- ・ 指導事項を明確化して系統性をもたせ、継続性、一貫性をもって指導すること

イ 単元の指導計画の工夫

- ・ 単元の目標を明らかにし、見通しをもって指導に当たること



② 実践事例

ア 単元の指導事項の明確化と学習の系統性の重視

単元の系統

1年 「古典のとびら」



2年 「言葉を受け継ぐ」



3年 「いにしえの心と語らう」

仮名遣いなど古典の基礎知識を学び、スラスラと読めるように暗唱に取り組む。

登場人物の気持ちを考えて、朗読群読に取り組む。

表現技法の使われ方に注意しながら、古人の思いを想像して読む。

各単元で何を習得することが目的なのかを明確にした。第1学年から第3学年まで、同じ指導事項を伴った単元を系統立てて指導している。生徒自らが前の学年で得た知識や技能を、次の学年で活かせるように単元を構成することによって、主体的に学ぼうという意欲を持って取り組むことができる。

イ 単元の指導計画の工夫

6 単元・題材の指導計画

段階	時間	単元時間の目標	○主な学習活動	■評価規準
親 し ま し む		・ 古典の学習を思い出すことができる。	○簡単な古典クイズで既習事項を振り返る。	■歴史的仮名遣
		・ 群読のイメージを持つことができる。	○群読のCDを聞く。	■古典を思い出している。【聞】 □発表、ワークシート
		・ 読み取ったことをもとに、工夫して朗読することができる。	○与一の神仏に祈る思いや、表現技法が使われている部分に工夫を加える。	■読み取った内容を、朗読に生かしている。【読】 □相互評価
		・ 「敦盛の最期」の原文を歴史	○範読を聞き、繰り返し	■音読練習を意欲的に
味 わ う		・ 中間発表を聞き、それぞれの班の工夫や心情の読み取りについて感想をもつことができる。	○担当部分から一部分のみ読み、班と交流する。	■意欲的に群読に参加
	5	きる。	*群読発表	ト

興味をもって古典学習に取り組めるように、導入部分では、クイズや暗唱テストを取り入れる。

朗読発表会に相互評価を取り入れた。

少人数のグループで群読を行うことで、読み間違いや解釈の違いに気付くことができる。また、中間発表会で、自分たちの取り組みを見直せるよう工夫した。

単元の段階を「親しむ」「楽しむ」「味わう」の3段階で設定した。古典に対して苦手意識を持つ生徒が多いため、生徒の発達の段階を考慮しながら古典に興味を持てるようにした。第1学年の復習を活かして取り組めるように、「音読」に重点を置いた単元の指導計画となっている。

③ 児童生徒の変容

単元のつながりを明確にし、「学んだことが次にどう活かされるか」を確認しながら授業を進めたことで、生徒自らが見通しを持ちながら目標を定めて授業を受けようとする姿がみられるようになった。また、群読練習の前に朗読を取り入れたことで、より具体的な例を出しながら話し合いを進めることができていた。

④ 研究内容1「既習事項を活かした指導過程の工夫」

(研究内容 1-2)

基礎・基本の定着を図る学び、または学び直しの在り方

ア 既習事項、学習状況の把握

- ・ シラバスやノートなどを活用し、学習の定着を把握しながら指導に当たること

イ 言語活動の充実と言語環境の整備

- ・ 教室掲示や学習資料の充実を図り、多様な言語活動を行える環境づくりをすること

⑤ 実践事例

ア 既習事項、学習状況の把握

自分で目標を記入することで、確認しながら、目標を持って授業に臨むことができる。

1時間ごとにどんな内容を扱うのか書いているので、見通しが持ちやすい。

生徒のコメントやまとめテストで理解度等確認しながら、授業を進めるように工夫する。

年度当初、生徒には「年間シラバス」という1年間の学習の流れを記載した冊子を配布し、説明している。また、単元毎に「単元シラバス」を配布し、1単位時間の内容や目標を記載し、生徒が見通しを持って授業に臨めるよう工夫している。

イ 言語活動の充実と言語環境の整備

発表会では役割分担をし、班員全員が必ず発言できるように工夫した。また、他者評価や自己評価を行う欄を設け、次の発表会に生かせるようにした。

朗読は、少人数のグループで発表会を行った。自分が工夫した点を言ってから発表し、その後意見交流する時間を設けた。友達の意見を書く欄を設け、いつでも見直せるようにした。

暗唱→朗読→群読と、段階的に言語活動を取り入れた。第1学年で覚えた文章を振り返りながら仮名遣いの確認を行い、新しく出てきた文章でも仮名遣いを正確に直して文章を読めるように、小テストや暗唱テストを取り入れた。また、スラスラ読む段階から「登場人物の気持ちや時代背景を考えて読む」段階にステップアップするため、朗読や群読に挑戦した。繰り返し音読練習を行うことで、古典のリズムや仮名遣いを理解し、作品の特徴を生かした音読ができるようになる。また、群読の中間発表会を設定した。それによって、自分たちのグループに足りないことを他の班と比較して気づくことができ、その後の本番の発表会に活かすことができていた。

⑥ 児童生徒の変容

音読の際に、他者評価と自己評価を取り入れた。他の意見を取り入れ自分の発表を見直すことで、音読練習の回数が増えた。繰り返し学び直すことができたので、後日実施した歴史的仮名遣いのテストでも成果が表れており、基礎・基本の定着につながった。

(研究内容 1—3)

ア 学習課題に導く発問の工夫

- ## ⑧ 实践事例

シラバスに書き込むことにより、単元全体の見通しを持って学習をすすめることができ、さらに、学習課題を自分のものとして主体的に取り組むことができる。

多志小漸進法 一三 入るつて、人の心、

李國平：論王若水

一、助けよめらばん
 二、助けよめらばん
 三、助けよめらばん

方法を述べた。

方法、わたりの技法、今員が一文を区切つて分述し、最後、今員でとう

方法は要分重要、異なる二口井を視て之を必要と認め得るべく

く声の強弱に導き、男子の声と女子の声の異い方など他にも工夫をこらさる處はたくさんあるから、金瓶人懐の五清や六橋聖賢等を讀むながら、グループで工夫してみよう。

☆工夫して拼読しよう☆

方法ソリ：一人

一人は「天啓、地啓」

方法のア・サ・ブル・グループの個人が、

九、法律上之地位

方法4 漸進法「1」の2倍の速さで読めるようになるまで繰り返す。

[illegible]

● ● ● ● ●

$$\frac{1}{15} > \frac{1}{20} > \frac{1}{30}$$

卷之三 入學の準備

李德裕

五、おはなのうた

湖村先生

王兆山 0167570000

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
84

32

Mathematical Proofs . . . 11

◇ 根絶的に「根絶」を

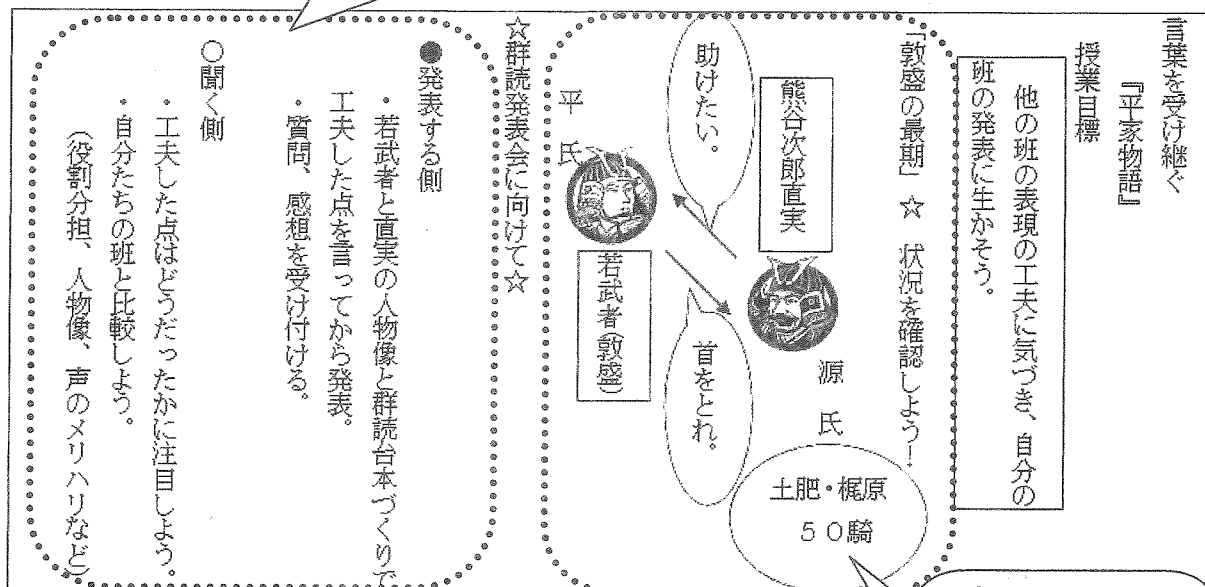
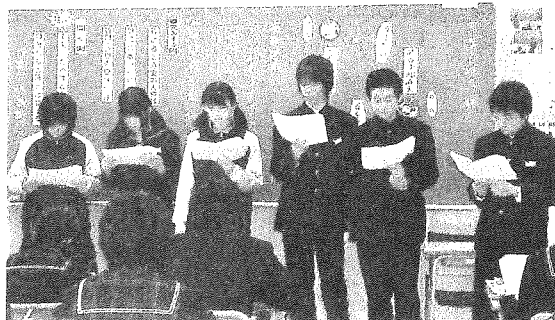
11

国語科2年 単元シラバス 読むこと『平家物語』

内 容	目 標
『平家物語』について知る	
「扇的」を読む	
「敦盛の最期」を読む	
「敦盛の最期」の詳読台本づくり	
詳読中間発表会	
詳読発表会本番	

ウ 板書の充実

今までの学びを活用できるよう、群読発表会に向けて発表する側と聴く側の要点を掲示する。



理解を深めるために、板書により戦場の武将の位置を押さえて状況を確認する。また、今までの学びを活用できるよう、群読発表会に向けて発表する側と聴く側の要点を掲示するなど、板書を充実させる。

理解を深めるために、戦場の武将の位置や人物像などの状況をふくめ、前時までの内容を板書。

⑨ 児童生徒の変容

発表する側と聞く側、それぞれの注意点を掲示したことにより、今までの学びが活用されているかどうかを確認しながら聞くことができていた。

後日実施したスピーチでも学んだことが活かされ、主体的に問題解決を図ろうとする姿勢がみられた。



(6) 仮説検証のサイクル2

① 公開授業

ア 成果

- ・ 生徒に見通しを持たせることができた。今の授業がどこにつながっていくのか見通しをもたせることで主体的に学習解決に取り組むことができた。
- ・ 学習指導要領に基づいて、一単位時間や単元、単元間の学習の系統性を明確にし、指導事項を系統的に指導していくことができた。
- ・ 生徒が板書事項を確認することで、今日の学習の中で自分たちがすべきことを確認しながら進めることができ、学習課題について生徒からよく意見が出ていた。
- ・ 学習の流れやねらい、前時までとのつながりや課題への取り組み方についてよく理解していた。
- ・ 前時まで群読の方法について特に生徒には提示していないが、配布した群読に関する資料を参考にして、自分たちで話し合いながら読み方を決めていた。

イ 課題

- ・ 生徒の実態に即し、どの単元でどの項目を重点的に指導するか、年間の指導計画の再確認をしていく必要がある。
- ・ 今回は音読をテーマに授業を行ったが、内容の読み取りと音読についてなど、指導内容の重点のかけかたを検討する必要がある。
- ・ シラバスを提示する際、学習する目標や内容をどの内容まで提示するか検討が必要である。内容が不足すると見通しを持つことができないが、提示しすぎると授業の展開に不具合が生じるため工夫が必要となっている。

② 次年度にむけての課題

ア (研究内容 1-1) について

- ・ 概ね達成することができたが、今後も指導事項を明確にすることは大切である。
- ・ 指導事項を明確にした上で、学習の系統性を重視しながら年間の指導計画を再確認することが必要である。
- ・ 学習内容及び明確にした指導事項について、単元でどの程度重点をかけるのか、その割合については、児童生徒の実態を考えて設定する必要がある。

イ (研究内容 1-2) について

- ・ 今年度は発達段階に応じて既習事項、学習状況の把握を適切に行うことができた。次年度は個々の学習状況に関するアンケートを事前に実施し、よりきめ細かな指導を行うことができると考える。
- ・ 今までのどの既習事項を活用すれば、本単元や本時の学習目標を達成することができるのか、年間の指導計画を再確認することで、学習活動に必要な基盤整備を行うことができる。次年度も共通理解を深めて実践研究する必要がある。

ウ (研究内容 1-3) について

- ・ 1単位時間の目標に近づくための課題の設定や発問の工夫、補助発問の精査を行うためには、次年度以降も学習内容の詳細な分析が必要である。
- ・ 自力解決を支えるためにも、今がどこにつながっていくのか見通しをもつことは重要である。そのためには、発達の段階に応じた課題や教材・教具を提示していく必要がある。

<資料> 公開授業研究会「国語科学習指導案」

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成23年11月8日(火)

第5校時 13:45～14:35

生 徒 星蘭中学校 2年1組

男子16名 女子16名 計32名

指導者 研究員 石田 純子

1 単元名・題材名 読む 言葉を受け継ぐ『平家物語』

2 単元・題材の目標

- ・作品の音読を通して、古典作品に興味をもつ。〔関心・意欲・態度〕
- ・作品の良さや登場人物の心情の読み取りを生かして朗読し、古典の世界を楽しむ。
〔伝国ア(ア)(イ)〕
- ・登場人物の言動や作品に示されたものの見方や考え方に注目して、気持ちをとらえる。
〔C読む(1)イ、エ〕
- ・読み取りを生かして内容や表現の仕方を交流しながら、グループで工夫して群読を行う。
〔C読む(2)ア〕

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、音読や朗読を通して、古文の口調に慣れ、言葉の響きに興味をもつことをねらいとしている。『平家物語』は、七五調を基本としたリズムの良い作品であり、音読に適した教材といえる。そこで、群読の発表に向けて、繰り返し音読練習を行い、登場人物の心情によって読み方を工夫することで、琵琶法師によって語り継がれた『平家物語』の表現の美しさに触れ、「和漢混淆文」の特徴や対句、擬声語・擬態語、係り結びなど言語表現の工夫に気づかせたい。

また、『平家物語』は日本を代表する「軍記物語」である。戦という状況の中で、武士たちは何を思い、何を感じていたのかを想像することで、現代と当時の考え方の共通点や相違点を知り、古典に興味を抱くきっかけとしたい。

(2) 生徒観

(3) 指導観

「敦盛の最期」の群読発表会に向けて、「正しく読む力」だけではなく、「情景・心情を想像して読む力」を段階的につけさせたい。そのために、冒頭部分の暗唱や扇の的での朗読を通して、まずは個の音読の力をつける。繰り返し音読することによって、古文のリズムや響きに慣れさせたい。また、群読を工夫しておこなうためには、登場人物の心情や場面の状況を知ることが大切になる。平氏と源氏の戦いについてや当時の武士の様子がわかるような資料を提示し、それぞれが登場人物の思いを感じることができるよう工夫したい。

4 単元の系統

1年

2年

3年

「古典のとびら」 → 「言葉を受け継ぐ」 → 「いにしえの心と語ろう」

5 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての 知識・理解・技能
・平家物語の群読や暗唱を通して、作品の世界を楽しもうとしている。	・登場人物の言動の意味を、時代背景や情景描写などから自分なりに考え、内容理解に役立てる。 ・作品を読み、内容や表現の仕方について感想を話し合い、群読に生かす。	・古典の基礎知識や表現技法、語句の意味などを理解している。 ・歴史的仮名遣いや古文の持つ独特なリズムに注意しながら音読している。

6 単元・題材の指導計画

段階	時間	単位時間の目標	○主な学習活動 *言語活動	■評価規準□評価方法
		・古典の学習を思い出そうとすることができる。	○簡単古典クイズで既習事項を振り返る。	■歴史的仮名遣いや1年生のときに学習した古典を思い出そうとし

親 し む	1	・群読のイメージを持つことができる。 ・『平家物語』の概略をつかみ、興味を持つことができる。 ・『平家物語』の冒頭部分を、正確に読むことができる。	○群読のCDを聞く。 ○平家物語について知っていることを発表する。 ○範読を聞き、繰り返し音読練習を行う。 *冒頭部分を暗唱する。	ている。【関】 □発表、ワークシート ■平家物語に興味を持つようとしている。 □発表 ■冒頭部分を仮名遣いやリズムに注意して暗唱しようとしている。 【関】 □暗唱テスト
楽 し	2	・「扇の的」の原文を歴史的仮名遣いやリズムに気をつけながら音読することができる。 ・「扇の的」を読んで、登場人物の言動や立場から心情を想像することができる。 ・読み取ったことをもとに、工夫して朗読することができる。	○範読を聞き、繰り返し音読練習を行う。 *スラスラ音読シートに成果を書き込む。 ○与一がどのような思いでの的を射たか、また、それを見ていた源平両軍の武士たちがどんな気持ちで様子を見ていたかを想像する。 ○与一の神仏に祈る思いや、表現技法が使われている部分に工夫を加える。	■音読練習を意欲的に行っている。【言】 □ワークシート ■他の意見を取り入れて自分なりの考えを持つようとしている。【読】 □ワークシート、発表 □読み取った内容を、朗読に生かしている。【読】 ■相互評価
む	3	・「敦盛の最期」の原文を歴史的仮名遣いやリズムに気をつけながら音読することができる。 ・現代文を読みながら、おおまかなあらすじをとらえることができる。	○範読を聞き、繰り返し音読練習を行う。 *スラスラ音読シートに成果を書き込む。 ○5W1Hで「敦盛の最期」のあらすじを簡単にまとめる。	■音読練習を意欲的に行っている。【言】 □ワークシート ■「敦盛の最期」の内容を理解している。 □ワークシート、発表

	4	・群読発表会に向けての話し合いに意欲的に参加しようとしている。 ・直実と敦盛、それぞれの心情を想像することができる。	○「前半部分」か「後半部分」を選び、役割分担をする。 ○班で話し合い、心情を想像しながら台本作りを行う。	■話し合いに意欲的に参加している。【関】 □観察 ■歴史的背景や情景描写から登場人物の気持ちを考えている。【読】 □ワークシート
味わう	5 (本時)	・中間発表を聞き、それぞれの班の工夫や心情の読み取りについて感想をもつことができる。 ・グループで改善点を話し合い、群読練習に生かすことができる。	○担当部分から一部分のみ抜粋して発表し、他の班と交流する。 *群読発表 ○改善点を台本に書き込み、練習する。	■意欲的に群読に参加している。【関】 □群読発表、ワークシート ■他の班の発表を聞き、自分たちの発表に生かそうとしている。【読】 □ワークシート、観察
	6	・群読発表会で工夫した点を強調し、積極的に声を出することができる。 ・他の班の工夫点や解釈について自分なりに考えることができる。	○グループで工夫した点を発表し、群読発表会を行う。 *群読発表 ○各班の発表を聞いて評価カードに感想を記入する。	■意欲的に群読に参加している。【関】 ■読み取った内容を生かした発表となっている。【読】 □群読発表 ■群読を通して作品に興味を持っている。【関】 □評価カード

7 本時の学習

(1) 本時の目標と評価規準

目 標	他の班の発表を聞いて表現の工夫に気づき、自分の班に生かすことができる。
評価規準	■作品の特徴を生かして群読し、古典の世界を楽しんでいる。 (伝国) ■内容や表現の仕方について感想を話し合い、群読に生かしている。 (読む)

(2) 本時の展開 (5/6)

過 程	○主な学習内容 *言語活動 ・予想される生徒の発言	◇教師の働きかけ	■評価規準□評価方法 ▲努力を要すると判断 される生徒への手だて
導 入	○前時までの確認。 *発表 ○本時の目標を確認し、シラバスに書き込む。 他の班の表現の工夫に気づき、自分の班の発表に生かそう。	◇「敦盛の最期」のあらすじを 思い出す。 ◇本時の目標を提示する。	▲前時までのノートや プリントを参考にさせる。
展 開	○群読の中間発表を行う。 *敦盛や直実の人物像、工夫した点などを発表してから群読を行う。 ・敦盛のいさぎよさ・冷静さが出るように、男子の声でハキハキと読みます。 ・直実の優しさが感じられるように、セリフは女子が読みます。 ・味方が迫ってくる様子を表すために、人数を少しずつ増やします。 ○他の班の発表を聞いて考えたことを、ワークシートに書き込む。 *発表 ・「どうど」の部分が強めに読まれていて良かった。 ・セリフの部分で、読む人数の増減で気持ちの変化を表せていた。 ・声に強弱があって良かった。 ○自分たちの班に生かすべき点 がなかったか交流し、台本の改善点を考える。 *話し合い ○話し合ったことをもとに、練	◇発表に関しての注意事項と、 聞くときのポイントを提示する。 ◇どこがどんな風に工夫されていたかを書くように指示する。 ◇感想を交流する。 ◇班長が中心となって、自分たちの班に生かせそうな部分を話し合うように促す。 ◇赤ペンで改善点を書くように指示する。 ◇改善点をふまえて練習するよ	■群読発表に意欲的にとりくんでいる。 □発表 ■他の班の表現の工夫を見つけている。 □ワークシート、発表 ▲聞くときのポイントを確認させ、自分たちの班との違いや、印象に残った点でもよいことを伝える。 ■他の意見を取り入れ、自分たちの発表をよりよいものにしようとしている。 □観察、ワークシート ■意欲的に楽しんで音

2 「第 2 部 会」の研究

(1) 研究仮説

(仮説 2)

課題解決の場において、基礎的・基本的な内容を言語活動を通して理解することにより、学ぶ楽しさや喜びを感じ、意欲的に学習するであろう。

仮説設定の理由や押さえ

①「課題解決の場」について

課題解決の場とは、児童生徒が自力で問題を解決したり、互いの考えを交流したりする場とおさえる。つまり、問題解決的な学習過程（つかむ・見通す・追求する・まとめる）においての追及する段階の自力解決の場、集団解決の場とおさえる。

②「言語活動」について

言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このような言語の果たす役割を踏まえた活動を言語活動とおさえる。

③「学ぶ意欲」について

学ぶ意欲とは、児童生徒が学習に主体的に取り組もうとする心の働きであるとおさえる。具体的には、知的好奇心や、挑戦心、向学的欲求などがある。

(2) 研究内容 2 「言語活動を活かした学習形態の工夫」

(研究内容 2-1)

解き方・考え方を伝える言語活動の工夫

- ア 児童生徒が、自ら考えをもつ工夫
 - ・ 問題や課題を正確に理解すること
 - ・ 解き方や考えの見通しをもつこと
- イ 学びを高め合う活動の工夫
 - ・ 考える過程と、その後の活動を評価する
 - ・ 発言の有意義さを感じさせ、自己有用感を感じさせる
 - ・ 考えを振り返ることができるようにする
- ウ 学習成果の明確化
 - ・ 発表や演習、自己評価などを通し、身に付けた力を感じさせる

(研究内容 2-2)

児童生徒が主体的に参加できる学習形態の工夫

- ア 児童生徒の興味・関心等の実態に応じた学習形態の工夫
 - ・ 児童生徒の興味・関心、適性等に応じた学習形態
- イ 学習過程の各段階における学習活動の状況に応じた学習形態の工夫
 - ・ 追求する段階の自力解決の場の学習形態
 - ・ 追求する段階の集団解決の場の学習形態

(研究内容 2-3)

学習意欲を引き出す教材・教具の工夫

- ア 児童生徒の実態に合った教材・教具
 - ・ 発達の段階にあった教材・教具
 - ・ 既習事項と関連した教材・教具
 - ・ 児童生徒に身に付いている学び方や学習習慣にあった教材・教具
- イ 目標の実現にあった教材・教具
 - ・ 教科等の目標に照らした教材・教具
 - ・ 単元、一単位時間の目標に照らした教材・教具
- ウ 効果的に学ばせる指導方法にあった教材・教具
 - ・ 計画した時間内に学習ができる教材・教具
 - ・ 困難な点やつまずきやすい点を分析した教材・教具

(3) モデル授業検討会

① 研究内容 2 「言語活動を活かした学習形態の工夫」

(研究内容 2-1)

解き方・考え方を伝える言語学習の工夫

活発で効果的な言語活動を行うためにも、留意点や教科の特質を踏まえることが必要である。それらを踏まえたうえで、以下の工夫を行った。

ア 児童生徒が自ら考えを持つ工夫

言語活動を設定するのあたっては、何を身に付けるのか、何のための活動なのか、計画段階で明確にし、その活動の目的を生徒にはっきり伝えることで、主体的、積極的な活動を行うことができる。

イ 学びを高め合う活動の工夫

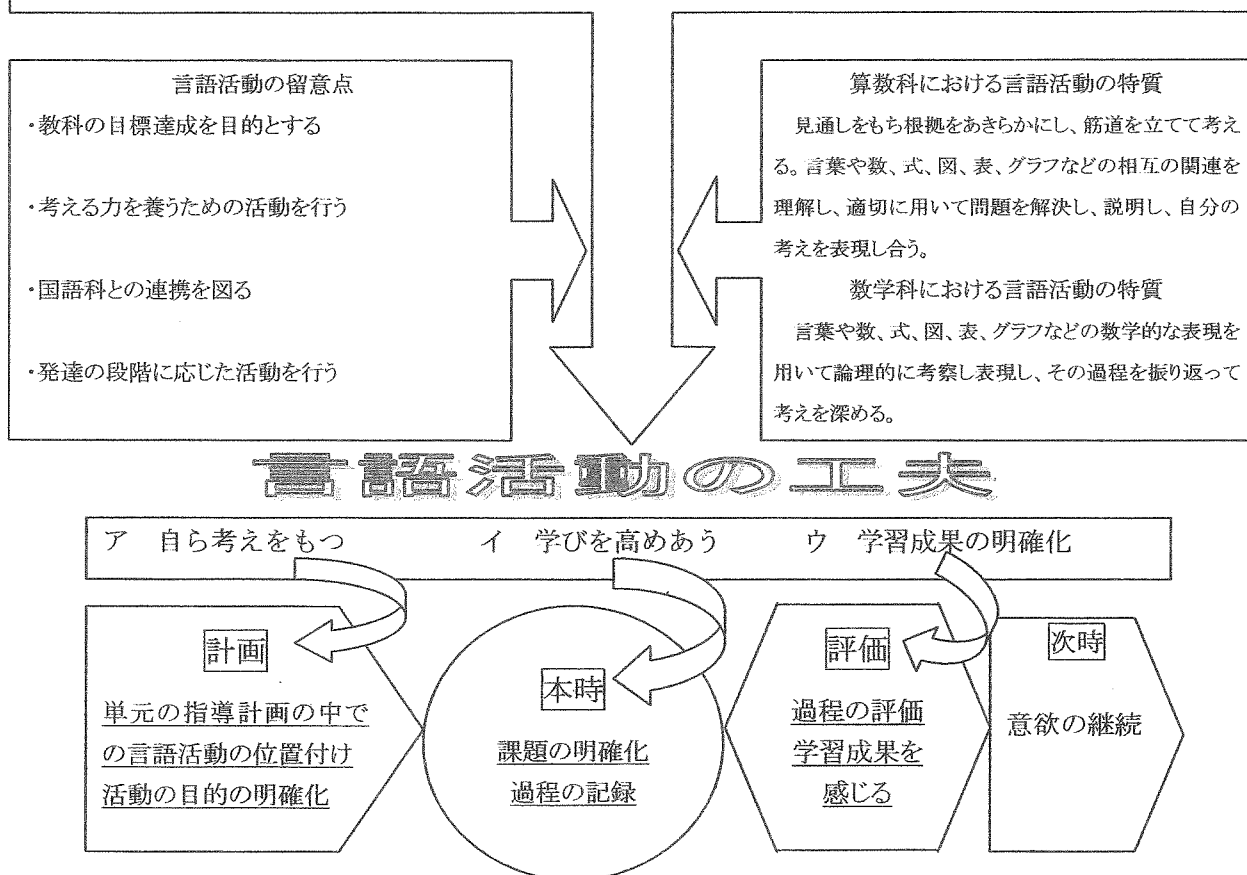
自分の考えた過程を明確に残すことで、考えた過程も合わせて伝えることができ、相手も理解しやすくなる。互いに理解し合うことで、伝え合う楽しさ、学ぶ楽しさを感じることができ、その上に学びの高め合いに発展すると考えることができる。また、結果の正誤ではなく、過程を評価することで考えに自信が持てるようになる。

ウ 学習成果の明確化

本時の中での成果を明確にすることで、学習による自己の成長の喜びを感じられるようになる。

以上3点の工夫を行うことにより、意欲的な学習につながると考えた。

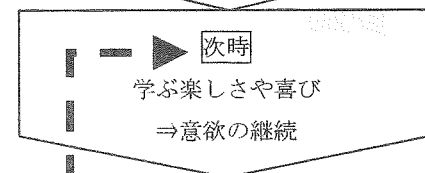
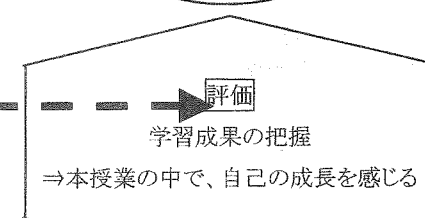
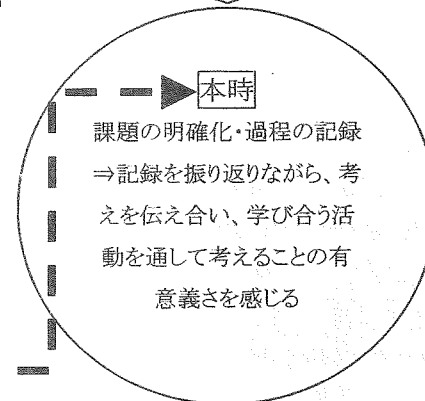
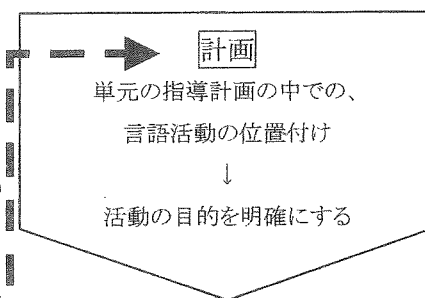
解き方や考え方を伝え合うために言語活動を取り入れ、基礎的・基本的知識及び技能を習得し、「できる」「わかる」といった達成感や、お互いの考えを伝え合い理解し合うことで、学ぶ楽しさや喜びを感じ、意欲的に学習する児童生徒を育む



② 実践事例

時間	主な学習活動 ※言語活動
1	相似な図形とは何かを理解できる
2	相似な図形をかくことができる
3	相似条件を理解できる ※ペアで異なる図形について、相似になるための条件を探し出し、交流し合う。
4	相似条件を使った証明の書き方が理解できる
5	相似条件を使うと証明することができる ※2つの図形が相似の関係にあることを論理的に説明し合い、理解を深める。

	主 な 学 習 活 動
つかむ・見通す	○予想を立てることで生徒の興味を引き、課題を確認する。 課題確認 線分の長さの関係についての考えを交流し合い、まとめよう →板書することにより、明確に課題を生徒へ伝える。
追求する	○グループごとに、考えを交流する。 ↓ グループの考えを画用紙へまとめる。 グループの考えを元にし、教え合い活動を行う 確認問題を解く シラバスへ本時の内容の記入

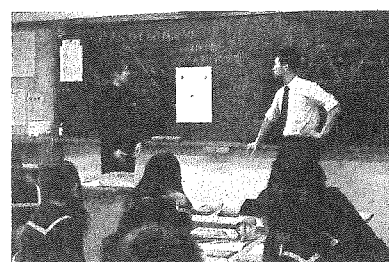
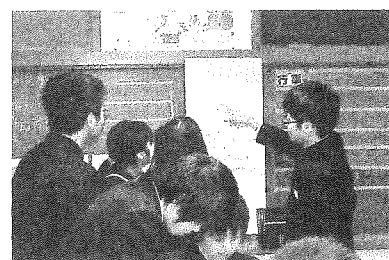


③ 児童生徒の変容

以上の工夫を行った。生徒の感想の中で、

- ・ 中点連結定理で班になったとき、みんな積極的に発言していてすごくいい授業になっていたと思う。普段の授業でも積極的に発言している人が多くて良いと思う。
- ・ わからないところを友達同士で聞きあっていたり、教え合う人が増えてきた。自習時間もみんな真剣に取り組んでいたりと、1組の勉強に対する意欲が高まってきていて良いと思う。

など、言語活動を取り入れ、さらに使い方を工夫したことにより、有意義な活動になったと生徒自身が感じていた。また、学習に対する意欲も増したという意見もあった。



④ 研究内容2「言語活動を活かした学習形態の工夫」

(研究内容 2-2)

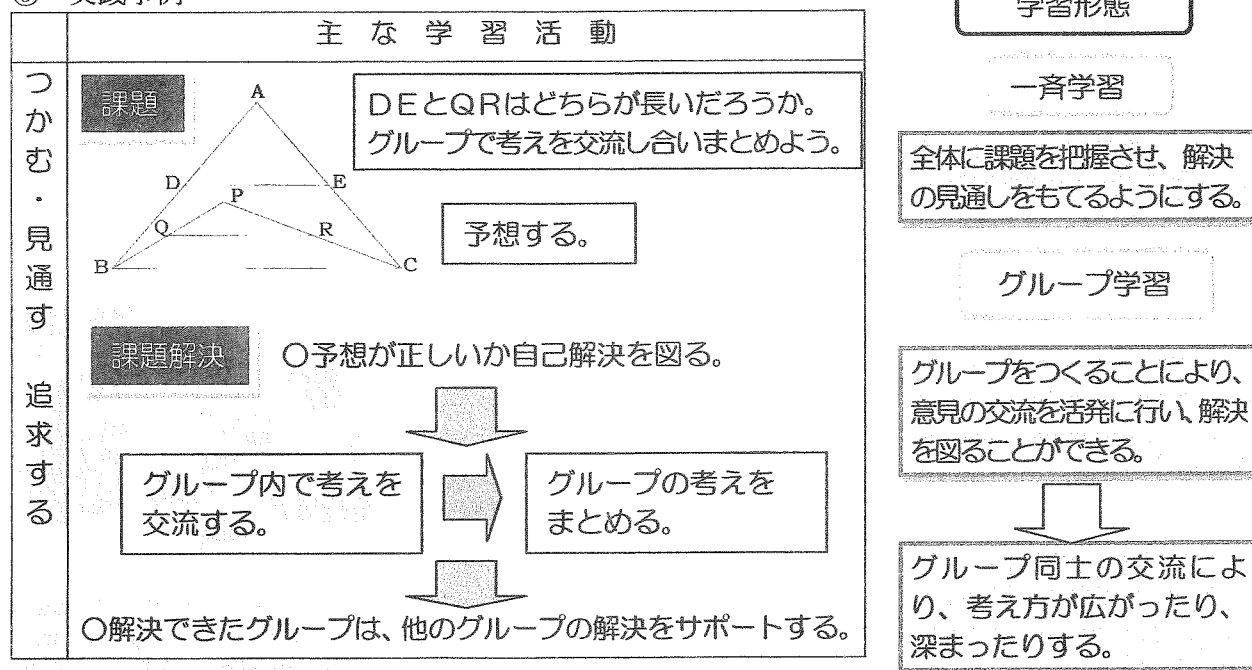
児童生徒が主体的に参加できる学習形態の工夫

イ 学習過程の各段階における学習活動の状況に応じた学習形態の工夫

学習形態は、次のように類別することができる。

種 類	特 徴	配 慮 事 項
一斉学習 話し合い活動など、集団で思考する場面で活用できる学習形態	・学習の導入部分で共通の課題を把握したり、学習のまとめ部分で伝え合い、学び合う場面でも効果的に活用できる。 ・多様な考えの交流により、思考の質が高まる。	・教師主導になりがちで、子ども主体の学習になりにくい。 ・T・Tなど個に応じた指導を充実させることも大切である。
グループ学習 子どもをいくつかの小集団に分けて指導する学習形態	・子どもの興味・関心や習熟の程度、理解の状況の違い等に対応が可能である。 ・話しやすい雰囲気をつくり出し、意見交流が活発になる。	・グループの一部の子どもだけで、学習が進んでしまう心配がある。 ・目標の実現を目指し、様々な形態の集団を編成することが大切である。
個別学習 個別の課題や個人のペースで考えたり、活動したりすることを重視した学習形態	・子どもの一人一人の能力や適性、興味・関心等、学習の理解度の差、学習スキルやスタイルなど、様々な違いに応じることができる。	・教師一人で支援しきれない場面がある。 ・適度に対話や交流場面を設けることも大切である。

⑤ 実践事例



⑥ 児童生徒の変容

やや難易度の高い課題設定であったが、グループ学習を取り入れることにより、多くの生徒が課題解決をすることができた。また、意見の交流を活発に行うなど、主体的に課題に取り組む様子がみられた。生徒の単元の振り返りによると、「わからない所を友達同士で聞き合っていたり、教え合う人が増えてきた」とグループ学習による学級全体の意欲の高まりの様子が書かれている。

⑦ 研究内容 2 「言語活動を活かした学習形態の工夫」

(研究内容 2—3)

学習意欲を引き出す教材・教具の工夫

学習意欲を高める教材・教具のポイント

ア 児童生徒の実態にあった教材・教具

興味・関心を高めるもの（え、なに？どういうこと？）、取り組む意欲をもたせることができるもの（やってみたい。解いてみたい。）、全体が何らかの形で（個人、あるいは集団で）取り組み可能なレベルのもの（できそう。できる。）

イ 目標の実現にあった教材・教具

取り組みの過程および結果が、学級で共有できるもの（こうかな。なるほど。そうなんだ。）

ウ 効果的に学ばせる指導にあった教材・教具

取組の結果、充足感が感じられるもの、また、自己の変容が感じられるもの（わかった。できた。やった。初めて知った。やってよかった。）

⑧ 実践事例

学習活動・内容	教師の評価・支援活動
・ 前時の復習問題と定理の確認 ・ 本時の目標確認	・ 本時のワークシート配布 ・ 宿題確認と前時までの理解度の把握 ・ 解答・定理の確認 既習内容を確認し、本時の学習意欲を高めるための「ア 児童生徒の実態にあった教材教具」
目標：中点連結定理を理解しよう ・ 課題を読み予想を立てる。	・ 予想を発表する。 単元や一単位時間の目標を達成するための「イ 目標の実現にあった教材・教具」
課題：線分の長さの関係について考えを交流し合い、まとめ。 ・ 自分の予想の理由を記述し、正しいかどうか確かめる。（自力解決） ・ グループで交流し考えをまとめる。 ・ グループごとに発表する。 ・ 全体交流し正解、結論をまとめる。 ・ 定理を確認し、練習問題を解く。 ・ 感想、自己評価を記入する。	・ グループ内で交流させ、どの意見が論理的かを話し合い、画用紙にまとめさせる。 ・ 机間指導をし、つまづいているグループに助言したり各グループの考えを把握したりする。 ・ キーワードになる考え方・説明を板書する。 ・ 各グループの考えを掲示しておく。 ・ 黒板で図示し、定理を確認 ・ 机間指導、解答・解説をする 自分たちの考えをはっきりさせ、全体交流での言語活動の拠りどころとなる「ウ 効果的に学ばせる指導方法にあった教材・教具」

⑨ 児童・生徒の変容

生徒の興味をひく課題であり、グループでの解決の様子が教具によってわかりやすく示されていたので、定理の内容が生徒に理解された。

(4) 仮説検証のサイクル1

① モデル授業

ア 成 果

- ・ 言語活動は生徒同士がアドバイスをするなど、教え合いの場面が見られ、理解の深まりが感じられたので良かった。
- ・ グループ学習は機能していて、グループ→1人→さまざまだったり、グループ同士の交流もあって良かった。
- ・ 課題は興味をひくもので、生徒は意欲的に取り組んでいた。

イ 課 題

- ・ 「解き方や考え方を伝え合う」ための自分の考えを持ち、自分の言葉で記述できていた生徒が少なかった。
- ・ 自力解決の時間の確保とまとめる段階での学習形態の工夫が必要である。
- ・ 課題が難しく、下位層の生徒に対して補助プリントなどがあると良かったのではないかな。

② 公開授業

ア (研究内容 2-1) について

- ・ 「つかむ・見通す」段階で生徒に予想をさせ、検討をさせた上で本時の課題を提示した。その後、グループ交流としたが自力解決の時間の少なさから、自分の言葉で考え記述できた生徒が少なかった。自力解決の時間をより多くとる必要がある。
- ・ 作成した資料を全体に出す場面があると、自分の意見の有意義さが感じられ次時の意欲につながると考えられるため、全体での発表の場を検討することとする。

イ (研究内容 2-2) について

- ・ 「つかむ・見通す」段階での一斉学習は、共通の課題を把握させることができたので有効的である。
- ・ 「追求する」段階では、自力解決の時間とグループ学習の時間のバランスを生徒の様子を見ながら考えていく必要がある。
- ・ 「まとめる」段階では、本時のまとめを活用した練習問題の取組時において、個別学習の形態をとることが望ましい。

ウ (研究内容 2-3) について

- ・ 児童のレベルをさらに考慮し、解決意欲のもてる課題を設定する必要がある。
- ・ 自分の考えを明らかにさせるとともに、グループでの話し合いに活かすことができる補助教材(ワークシートなど)を利用すべきである。
- ・ 全体での解決場面では、それを使うことで全員が話し合いに参加しやすくなるような教具を工夫する必要がある。
- ・ 自分の解決過程や全体での話し合いの内容を振り返り、本時で何を身に付けることができたのか、児童自身がわかるような補助教材(プリント等)を導入するとよい。

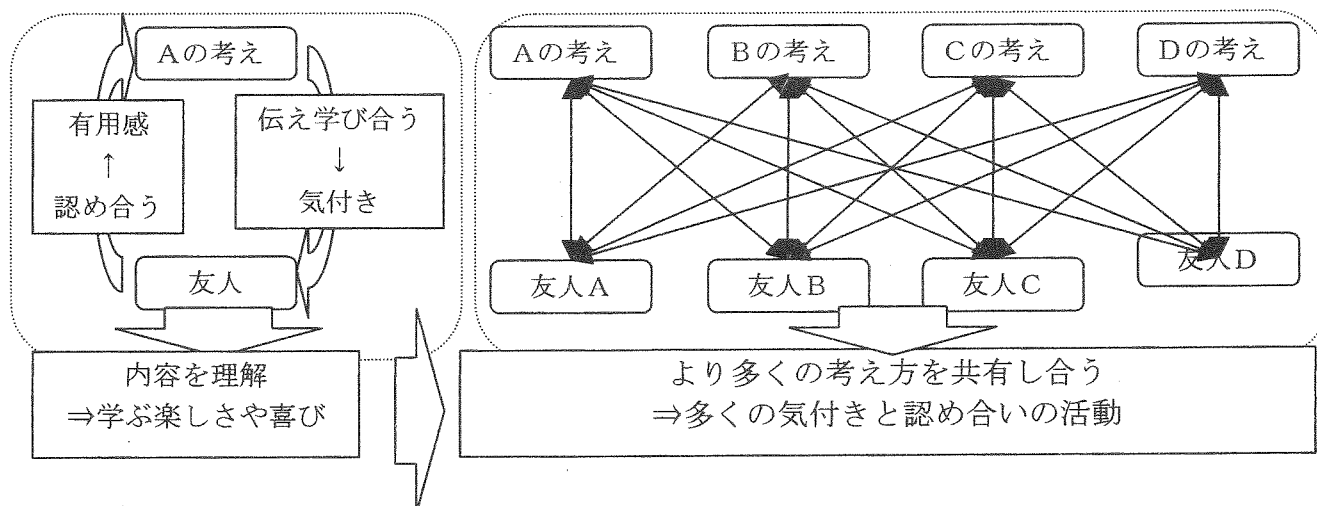
(5) 公開授業研究会

① 研究内容2「言語活動を活かした学習形態の工夫」

(研究内容 2-1)

解き方・考え方を伝える言語活動の工夫

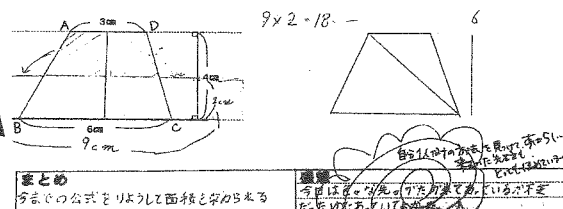
モデル授業では全体発表を行わず、教え合う活動を通して、発言や自分の考えの有用性を感じさせていたが、全体での発表は1グループのみであり、多様な考えに気付く場としては不足していたと考えられる。公開授業では、より多くの考え方を全体場で発表することにより活発な認め合い、学び合いの活動となると考え、実践を行った。



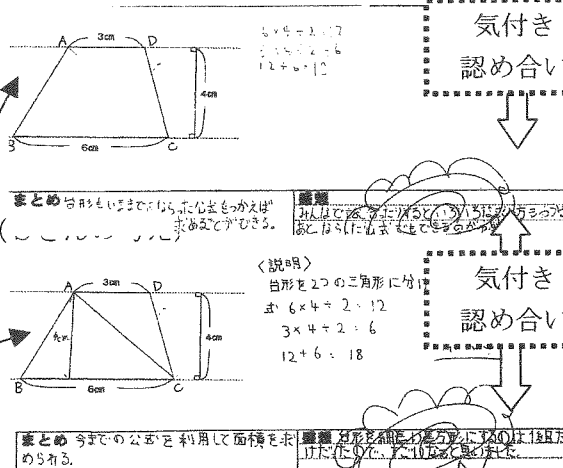
② 実践事例

	主 な 学 習 活 動
つかむ・見通す	【課題】 他の形に変えて、台形の面積の求め方を考えよう。
追求する	○図がのっている大きな用紙に、自分の考えをまとめる。 発表を行うことを意識し、記号・矢印などで他者に伝わるよう記述を行う。
まとめる	○自分の考えを元にしなが らグループで意見交流を行う。 ○それぞれのグループで考えた求め方を発表する。 ○まとめと感想の記入

(Y君の考え)



(Kさんの考え)



③ 児童生徒の変容

Y君の感想

「今日はいろいろな先生方が来て、合っているか不安だったけどあってよかった」

Sさんの感想

「台形を細長い長方形にするのは1組だけだったので、すごいなあと思いました。」

Kさんの感想

「みんなで話し合ったりするいろいろな求め方もわかるし、あと、ならった公式でもできるのがわかった。」

事前に出てくるであろう考え方を教師側で予想していたが、Y君やSさんのような、予想していなかった発想がうまれた。それらの考えについても、「〇〇さんと同じです」「少し違います」と、内容を理解したうえで、自分の意見を述べる場面が見られ活発な言語活動の場となった。また、全体発表の際、「オー」「すごい」などといった歓声があることがあった。子ども同士の素直な評価は、学ぶことの喜びをより強いものとすると考えられ、次の学習への意欲となるであろう。

以下は、そのほかの感想。

- ・ 最初、予想で、こんな感じかなあと思ってて、そしたらあってて、しかもみんながすごいやり方を発表してて、すごかったです。
- ・ 自分のかんがえてたのより、かんたんなやり方があった。
- ・ 自分ではわからなくて、友達を見て、へーと思いました。

以上のように、多くの考えを全体場で発表し、理解し合うことで、多くの認め合い、学び合い活動となったと考えられる。

④ 研究内容2「言語活動を活かした学習形態の工夫

(研究内容 2-2)

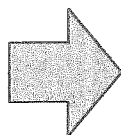
児童生徒が主体的に参加できる学習形態の工夫

イ 学習過程の各段階における学習活動の状況に応じた学習形態の工夫

- ・ 追求する段階の自力解決の場の学習形態
- ・ 追求する段階の集団解決の場の学習形態

自力解決の時間の確保

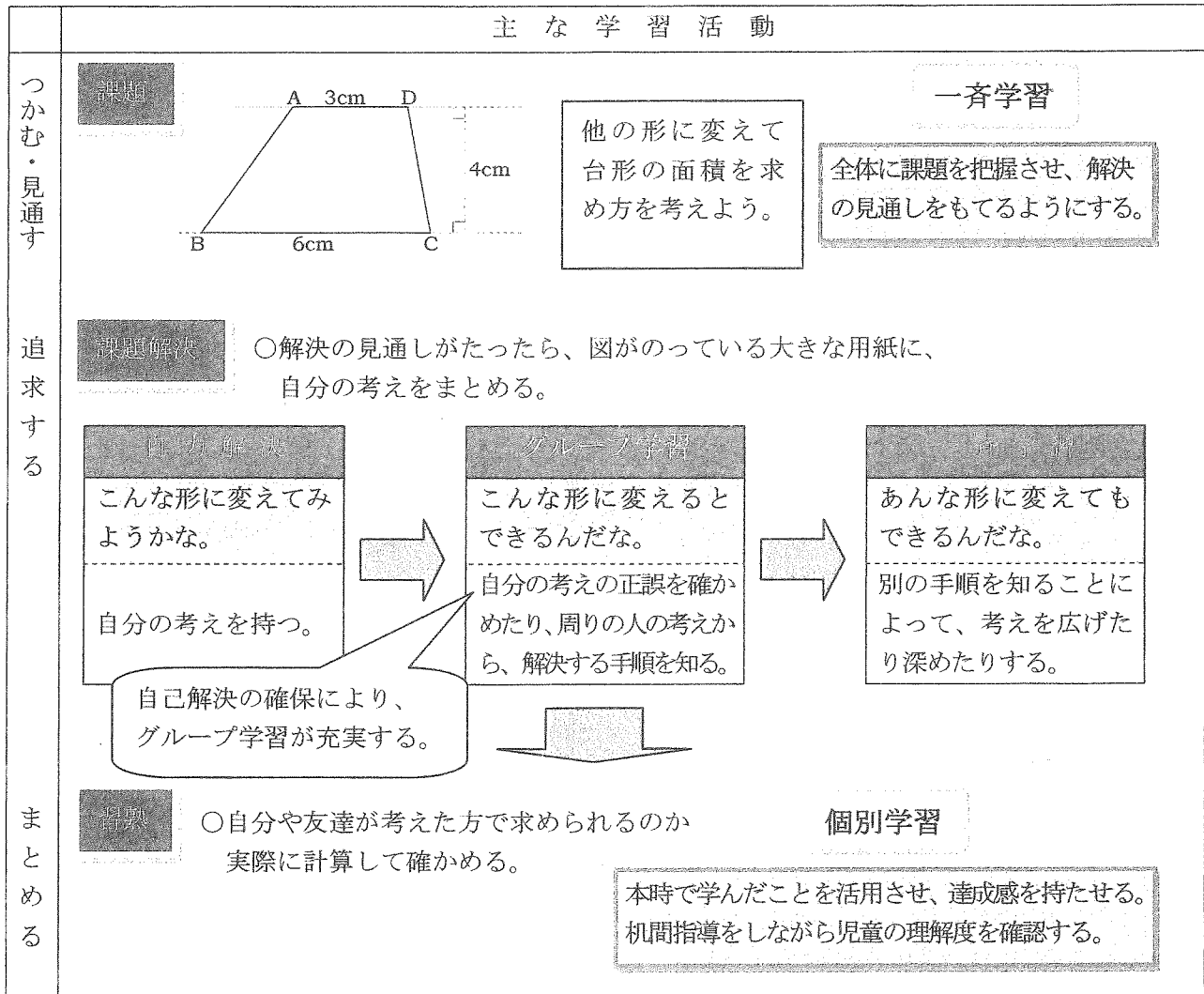
途中までだったり、間違っているでもいいので、一人一人に自分の考えを持たせる。生徒の様子に合わせて、机間指導しながら支援(ヒントカードなど)をしていく。



グループ学習の充実

自力解決の時間を確保して一人一人が自分の考えを持つことによって、グループ学習の質が高まる。様々な考え方にふれたり、自分の間違いに気づいたりできる。

⑤ 実践事例



⑥ 児童生徒の変容

自力解決の時間を確保し、支援が必要な児童にも机間指導の中でヒントを与えるなどしたことにより、たとえ途中までだったとしても多くの児童が自分の考えを持つことができた。そのおかげでグループ学習の質も高まり、周りの人の考えを参考にしながら課題を解決することができた。

授業の感想によると「みんなで話し合ったりすると、いろいろな求め方がわかる」「みんなのやり方を見て、わかったのでよかった」「やり方がたくさんでびっくりした」など、グループ学習や一斉学習による成果がみてとれる。

⑦ 研究内容2「言語活動を活かした学習形態の工夫」

(研究内容 2-3)

学習意欲を引き出す教材・教具の工夫

モデル授業の課題を受けて、公開授業に向け以下のようなポイントで教材・教具について検討を加えた。

教材・教具の使用にあたって留意すること

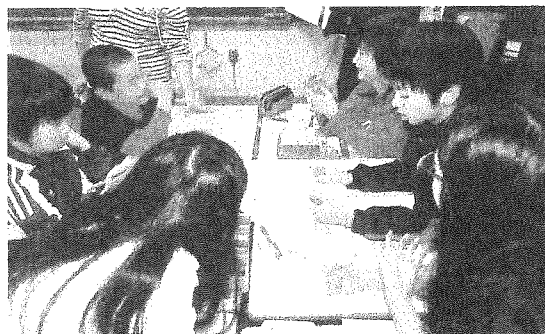
- どの場面で使用するか。(どの単元、どの時間、どのタイミング)
- どのようなものを使用するか。(どのような教材・教具で)
- どのような方法で(どのように教材・教具の提示をするか)

⑧ 実践事例

学習活動・内容	教師の評価・支援活動
・ 前時までの学習を確認する	・ 既習の求積公式の確認
・ 課題を知る。	・ 児童生徒の実態にあった教材・教具
・ 求め方について図を使いながら、まとめる。(自力解決)	・ 目標の実現にあった教材・教具
・ グループで話し合う。	・ 今までの学習を活かしながら図やプリントにわかりやすく書き込ませる。
・ グループごとに発表し、全体で交流する。	・ グループで考えたことを全体に説明できるようプリントや用紙にまとめさせる。
・ 出された様々な考えを利用し、練習問題を解く。	・ 交流する中で、いろいろな方法で台形の面積が求められることを知る。
	・ 机間指導し、助言・評価する。
	・ 効果的に学ばせる指導方法にあった教材・教具

⑨ 児童生徒の変容

適切な教具を使用することで、グループで相談した解決方法をスムーズに交流することができた。その結果、様々な求積方法ががることを知った。また、ワークシートで本字の学習について振り返らせることで、言語活動を活用しながら課題についての理解を深めることができた。



(6) 仮説検証のサイクル2

① 公開授業

ア 成 果

- ・ 手段として、言語活動が活発に行われていた。
- ・ 考えを積極的に伝えようとしていた
- ・ 個別学習では一人一人が意欲的に課題に取り組んでいた。
- ・ 小グループ学習では話し合いが積極的に行われていた。
- ・ 全体交流では、発表者の意見を大切にしながら、全体で課題解決の取り組みもうとする姿が見られた。そういう意味では、単位時間における様々な学習形態が良く機能していた。
- ・ 課題は発達の段階に適したものであり、どの児童も課題解決に取り組もうとすることができた。
- ・ 教材プリントは課題解決に適したものであった。
- ・ 大判の画用紙を使うことで話し合いや全体交流がスムーズに行くように配慮されていた。

② 次年度に向けての課題

ア 言語活動について

- ・ 「ねりあい、高め合う」という目的での言語活動もあるとなお良い
- ・ 言語活動を重視しすぎ、算数・数学科本来の「考える、発見する、わかる楽しさ、喜びを味わわせる」場面の時間が不足した。単位時間内の言語活動のウェイトについて検討する必要がある。

○ 全体として

教科の特性をより意識した言語活動の持ち方について検討する必要がある。その中で、自力解決の時間、習熟の時間についても割合を見直す必要がある。

また、算数・数学科としてのみの言語活動ではなく、他教科のうち主に国語科で学習した内容を活用し、算数・数学科の特性をとらえた言語活動を充実させる必要がある。

イ 言語活動を活かした学習形態の工夫

- ・ 個人、小グループ、全体での学習時間をどう配分すると学習効果があがるか検討する必要がある。

○ 全体として

アと同様となるが、各グループ形態での学習時間の配分について検討する必要がある。

また、小グループを作る際の分け方について、学習の目標に沿うよう意図した組み方についても検討する必要がある。

ウ 学習意欲を引き出す教材・教具の工夫

- ・ 問題と同様の色板など、具体物が与えられると良い。
- ・ 全体交流では、説明内容が他の児童生徒に分かるような教具や板書があるとさらに良い。

○ 全体として

児童生徒が説明する場面において、視覚的な教具や板書事項があるとより理解が深まるのではないか。

第5学年 算数科学習指導案

日 時 平成23年11月30日(水)
第5校時 13:30～14:15
児 童 知利別小学校 5年2組
男子19名 女子12名 計31名
指導者 研究員 遠 藤 智 子

1, 単元名 「面積」 本時 8 / 14

2, 単元の目標

○三角形や平行四辺形などの面積の公式を理解し、公式を使って面積を求めることができる。
また、三角形の面積を三角形分割の考えで求めることができる。

3, 単元について

(1) 単元観

本単元では、三角形や平行四辺形などの面積の求め方を考えながら、面積の意味の理解を深めることが主なねらいである。

まず、既習事項の正方形や長方形の面積を求める公式を利用して、直角三角形の面積を求められることを学習する。このことは、「三角形の面積の求め方がわかれば、四角形の面積を求めることができる」というこの単元の基本的な考えである。

また、面積を求める公式を覚えるのはもちろんであるが、学習の中でいろいろな面積の求め方を考えたり、交流したりする中で自分の考えがより深まったり、広がったりする機会とし、実生活とのつながりやあらゆる多角形の面積の求め方の基本となっていることにもふれさせていきたい。

(2) 児童観

(3) 指導観

「三角形の面積の求め方」を基礎基本に位置づけ、それをもとにいろいろな四角形の面積の求め方を考える学習展開の中で、既習内容を活用して新たな学習内容を解決していくことを大切にしていきたい。公式を覚え、基本的な問題を解くことは割と得意な児童が多いが、いろいろな考え方を交流したり、説明したりする中で基礎基本をしっかりと身に付け、多角的な考え方をしながら問題を解けるように指導をしていきたい。

4, 単元の系統

4年

7

面 積

- 面積の概念と単位 cm^2 m^2 km^2 a ha
- 長方形、正方形の面積の公式

5年

9

面 積

- 三角形、一般の四角形、台形、ひし形の求積
- 面積の求め方のくふう

←

2

体 積

- 直方体や
立方体の体積

6年

9

円の面積

- 円の面積

5, 単元の評価規準

ア関心・意欲・態度	イ数学的な考え方	ウ技能	エ知識・理解
既習の面積公式をもとに三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を進んで見出そうとしている。	既習の面積公式をもとに三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式をつくらることができる。	三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を用いて、面積を求めることができる。	三角形や平行四辺形などの面積の求め方を理解する。

6. 単元の指導計画

時間	・単位時間の目標	○主な学習活動	*言語活動	■評価規準□評価方法
4	1 三角形の面積			
①	・直角三角形の面積の求め方を理解する。	○長方形や正方形の面積の求め方から、直角三角形の面積の求め方を考える。 *長方形は、2つの直角三角形であることに着目しながら話し合う。		■長方形の面積や正方形の面積を使っていろいろな面積をもとめようとしている。(関) ■直角三角形の面積を求めることができる。(技) □ノート、発言 話し合いの様子
①	・一般の三角形の面積の求め方を色々に考え、説明する。	○長方形や直角三角形の面積の求め方から、一般の三角形の面積の求め方を考える。 *既習事項を生かしながら、お互いの方法について説明し合う。		■一般の三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。(考) □発言、ノート
①	・三角形の面積を求める公式を考える。	○三角形の面積を求める公式について考え、公式をまとめる。		■三角形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。(知・技) □ノート、練習問題
	・四角形の面積を三角形分割の考え方をを用いて求める。	○三角形の面積の求め方をもとに、四角形の面積の求め方を考える。 *既習事項を活かしながら、お互いの方法について説明し合う。		■四角形を三角形に分割する考え方をを用いて、四角形の面積を求めることができる。(考・技) □発言、ノート
2	2 平行四辺形の面積			
①	・平行四辺形の面積の求め方を色々に考え、話し合う。	○三角形の面積の求め方や等積変形を使って、平行四辺形の面積の求め方を考える。 *既習事項を活かしながら、いろいろな面積の求め方について話し合う。		■既習の図形の面積の求め方を使って、面積を求めようとしている。(関) ■平行四辺形の面積の求め方について考え、説明することができる。(考) □話し合いの様子 発言、ノート
①	・平行四辺形の面積を求める公式を考える。	○三角形の面積の求め方や等積変形を使って、平行四辺形の面積の求め方を考える。		■平行四辺形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。(知・技) □発言、ノート
5	3 いろいろな三角形・四角形の面積			
①	・高さが外にある三角形や平行四辺形にも面積を求める公式が適用できることを理解する。	○教科書の切り取り教具を使い、高さが外にある三角形を変形させたり、教科書の図のように平行四辺形を変形させたりして、面積を求める公式が適用できることを理解する。 *既習事項を活かしながら、いろいろな方法の面積の求め方について話し合う。		■既習の三角形や平行四辺形に変形して面積を求めようとしている。(関) ■高さが外にある三角形や平行四辺形について、公式を用いて面積を求めることができる。(考・技) □話し合いの様子 発言、ノート
①	・台形の面積の求め方を考え、説明する。 本 時	○これまでの学習をもとに台形の面積の求め方を考える。 *既習事項を活かしながら、いろいろな方法の面積の求め方について話し合う。		■台形の面積の求め方を考え、説明することができる。(考) □話し合いの様子 発言、ノート

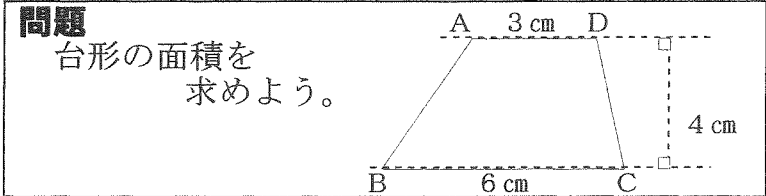
①	・台形の面積を求める公式を理解する。	○台形の面積の求め方について考え、公式にまとめる。	■台形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。 (知・技) □ノート、練習問題
①	・ひし形の面積の求め方を考え、説明する。	○これまでの学習をもとにひし形の面積の求め方を考える。 *既習事項を活かしながら、いろいろな方法の面積の求め方について話し合う。	■ひし形の面積の求め方を考え、説明することができる。(考) □話し合いの様子 発言、ノート
①	・ひし形の面積を求める公式を理解する。	○ひし形の面積の求め方について考え、公式にまとめる。	■ひし形の面積の求め方の公式を理解し、面積を求めることができる。 (知・技) □ノート、練習問題
3	4 面積の問題		
①	・三角形の求積公式の高さや底辺を変えた時の面積との関係を調べる。	○底辺一定で高さを変化したり、高さ一定で底辺が変化する場合の面積の変化の様子を調べる。 *変化した時の数の関係について話し合う。	■三角形の高さや底辺と面積の関係を考えることができる。(考) □話し合いの様子 発言、ノート
①	・面積を求める式の形に着目し、式の表す意味を具体的に即していろいろにより取る。	○式の形から、いろいろな求積の仕方がよみ取れることをまとめる。	■面積を求める式の形に着目し、式の表す意味をよみ取ることができる。(考・技) □発言、ノート
①		○たしかめ道場などの練習問題を解く。	

7. 本時の学習

(1) 本時の目標と評価規準

目 標	既習の求積方法をもとにして、台形の面積の求め方を考えることができる。
評価規準	三角形や四角形(長方形や平行四辺形)の面積の求め方を活用して、台形の面積の求め方を考えている。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 *言語活動 ・予想される児童の発言	◇教師の主な働きかけ	■評価規準 □評価方法 ▲努力を要すると判断される児童への手立て
つかむ	○前時までの学習を確認する。 ○問題を知る。 問題 台形の面積を求めよう。  ○課題を知る。 課題 他の形に変えて台形の面積の求め方を考えよう。	◇三角形や四角形の面積の公式の確認 ◇問題提示 ◇課題提示	

8, 座席表

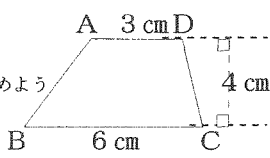
	黒	板
--	---	---

9, 板書計画

平行四辺形の面積の公式
= 底辺 × 高さ



問題
右のような台形の面積を求めよう



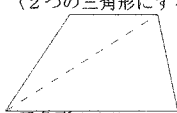
課題
他の形に変えて台形の面積の求め方を考えよう。

- ・ 三角形に分けて考える
- ・ 平行四辺形、(長方形や正方形) 変えて考える

三角形の面積の公式
= 底辺 × 高さ ÷ 2

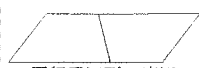


〈2つの三角形にする〉



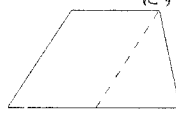
- ・ 三角形 ABD
 $3 \times 4 \div 2 = 6$
- ・ 三角形 BCD
 $6 \times 4 \div 2 = 12$
- ・ 2つの三角形を
合わせると
 $6 + 12 = 18$
A 18 cm²

〈2つ合わせて平行四辺形にする〉



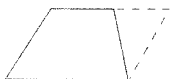
- ・ 平行四辺形の底辺
 $3 + 6 = 9$
- ・ 公式を使うと
 $9 \times 4 = 36$
- ・ 半分にすると
 $36 \div 2 = 18$
A 18 cm²

〈平行四辺形と三角形にする〉



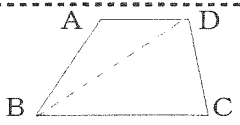
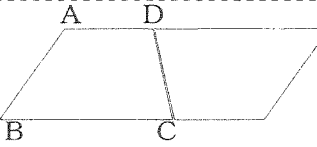
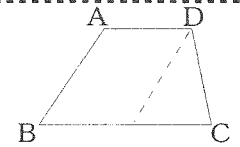
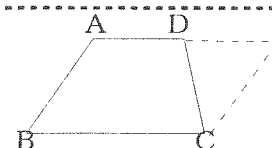
- ・ 平行四辺形の底辺 3 cm
平行四辺形の面積の公式を使うと
 $3 \times 4 = 12$
- ・ 三角形の底辺
 $6 - 3 = 3$
三角形の面積の公式を使うと
 $3 \times 4 \div 2 = 6$
- ・ 2つを合わせると
 $12 + 6 = 18$
A 18 cm²

〈平行四辺形から三角形をとる〉



- ・ 平行四辺形の底辺 6 cm
公式を使うと
 $6 \times 4 = 24$
- ・ 三角形の底辺 3 cm
公式を使うと
 $3 \times 4 \div 2 = 6$
- ・ 重なりをひく
 $24 - 6 = 18$
A 18 cm²

まとめ
台形も工夫するといろいろな方法で面積を求めることができる

見通す	○解決の見通しをもつ。 ・三角形に分けて考える ・長方形、正方形、平行四辺形に変えて考える。	◇今までの学習を活かし、図を変形させていくことに着目させる。	
追求する	○台形の面積の求め方について、図を使いながらまとめる。 〔自力解決〕 ○自分の考えを元にしながら意見交流をし、他の形に変えて求める方法を考え、話し合う。 〔集団解決・グループ学習〕 ・予想される児童の考え (4パターン)	◇今までの学習を活かしながら、図やプリントにわかりやすく書き込ませる。 ◇グループの中で求め方を交流し合う。 ◇1つの方法にとらわれず、他の方法でも求める方法を考えるよう促す。 ◇説明できるようにプリントなどにまとめるように促す。	■三角形や平行四辺形の面積の求め方を活用して、台形の面積の求め方を考えることができる。 (考) □話し合いの様子 書き込み ▲既習事項を活かしやすいように、具体物を提示する。 ・マス目付きの用紙を使用
	 〈2つの三角形にする〉 ・三角形ABD $3 \times 4 \div 2 = 6$ ・三角形BCD $6 \times 4 \div 2 = 12$ ・2つの三角形を合わせると $6 + 12 = 18$ A 18 cm^2		
	 〈2つ合わせて平行四辺形にする〉 ・平行四辺形の底辺 $3 + 6 = 9$ ・公式を使うと $9 \times 4 = 36$ ・半分にする $36 \div 2 = 18$ A 18 cm^2		
	 〈平行四辺形と三角形にする〉 ・平行四辺形の底辺 3 cm 平行四辺形の面積の公式を使うと $3 \times 4 = 12$ ・三角形の底辺 $6 - 3 = 3$ 三角形の面積の公式を使うと $3 \times 4 \div 2 = 6$ ・2つを合わせると $12 + 6 = 18$ A 18 cm^2		
	 〈平行四辺形から三角形をとる〉 ・平行四辺形の底辺 6 cm 公式を使うと $6 \times 4 = 24$ ・三角形の底辺 3 cm 公式を使うと $3 \times 4 \div 2 = 6$ ・重なりをひく $24 - 6 = 18$ A 18 cm^2		
まとめる	○それぞれのグループで考えた面積の求め方の説明をする。 * 台形の面積の求め方を説明する。 ○練習問題にて、面積の求め方が正しいかどうか確かめる。	◇交流し合う中でいろいろな方法で求められることを確認する。 ◇自分が考えた方法で求められるのか実際に計算して確かめさせる。	